

【議会報告会】

○コミュニティ助成事業は何年前から行われているのか。

⇒議員 本事業は、一般財団法人自治総合センターが宝くじ販売の収益金を財源として行っている事業であり、宝くじの販売当初より行っていると思われる。なお、霞ゆめくじら公園もこの制度を活用し、整備を行った。

【シティ・ミーティング】

○市民協働促進計画がわかりづらい。また、市民協働促進計画の計画期間である 4 年間は非常に大切な時期である。年度別の実践編を作成し、効果のあったものは期間延長を行うことで、より効果を上げられるのではないか。

○各地域の特色もあるため、地域版のような計画が必要になってくるかと考えるが、よりよい方法を地域とともに考えていければよいと思う。

⇒議員 現在、地区にて行われている活動が、市民協働促進計画にどう繋がるのかという説明が自治会単位になされると、地域の方の理解がより深まるのではないか。また、地区ごとの防災マニュアルがあるように、市民協働促進計画も同様の形で広がればさらに活性化されるのではないかと考える。

⇒議員 地区の都市計画マスタープランと連携させることができないかとの議論が都市計画審議会でもなされたことがある。今後は市民協働促進計画との連携を検討すべきと感じている。

○市民協働という言葉が市民に浸透していないのではないか。また、市の作成した市民協働促進計画の冊子も理解し難いため、誰にでもわかるようにしてほしい。

○三重地区において、館長権限予算により事業を行ったが、予算は 1 年限りであった。事業継続のため、カブトムシの養殖や四日市商業高校の協力を得るなどして、予算の捻出に努めているが、事業を継続できるような予算を確保してほしい。

⇒議員 市民協働促進計画の冊子は市が考えて作成したものであるが、文字情報が多くわかりにくいいため、誰にでもわかりやすい表現や内容となるよう、担当部局へ申し伝える。

⇒議員 事業継続について、予算確保の面で苦勞いただいている状況はよくわかる。館長権限予算のあり方については、市民の皆様の意見を伺いながらよりよいものにしていきたい。

○館長権限予算の事業内容を知りたい。また、市民活動支援事業の予算額が前年に比べて減額となっているが、予算額の推移を知りたい。

⇒議員 平成 28 年度、三重地区では「もっと住み続けたくなるまちづくり」、県地区では「『あがたの課題をみんなで解決』作戦」、八郷地区では「郷土愛を育み、世代を超えてふれあい、絆を深めるまちづくり事業」、下野地区では「下野ふるさと見直し事業（下野音頭編）」という事業を実施予定である。

⇒議員 市民活動支援事業の過去の予算額については、正確な数字を答えかねるため、ご希望の場合は、議会報告会終了後に連絡先をお伺いしたうえで、個別に回答いたしたい。（※）個別の回答希望はなかった。

○自身の所属するボランティア協会での活動に館長権限予算を使うことができると聞いたが、桜地区の館長権限予算の事業内容及び各地区の事業費についてはどのようなか。

⇒議員 桜地区は「心のかよう緑豊かなまち 桜へ」という事業を 150 万円で実施予定である。他に、三重地区は 145 万円、県地区は 147 万 3 千円で実施予定である。

⇒議員 ご自身の活動への予算措置を館長に打診いただくことにより、より地域にとって有効な館長権限予算の使い道が模索できるのではないかと考える。

⇒議員 本事業は館長だけでなく、地域とともに行う事業である。要望するだけでなく、より地域のためになる事業を館長と地域とで検討していくことが本事業の趣旨ではないかと考える。

⇒議員 これまで地域で存在していた助け合いの仕組みに、今後、無数のボランティア、助け合いが加わっていくのではないかと考えており、それが市民協働ではないかと考える。また、地域からの要望に対するハード面での予算措置はあるが、ソフト面での予算措置はないため、そこに館長権限予算が使われることが有効ではないかと考える。

○防犯カメラ設置事業補助金の対象は購入及び設置工事等であり、維持管理は対象外であ

る。防犯外灯と同様に防犯カメラの維持管理も補助対象としていただくことを検討願いたい。

⇒議員 例えば、学童保育所に配備されているAEDも、当初は設置補助のみであったが、その後、維持管理費も補助対象に拡張されたため、同様の取り扱いが検討できるのではないか。

⇒議員 市民の安心・安全のために防犯カメラの設置は今後さらに必要と考えるが、まずは設置台数を増やすこととし、次の段階で維持管理についても考えていきたい。

○松阪市では、地域ごとに地域協議会を設置し、市職員も参加しながら、地域の方々が意見交換し、地域づくりを行っていた。そのような取り組みを四日市でも考えてはどうか。

○松阪市では、地域の方々が主体となって地域づくりを考えていたが、本市は行政に頼っている部分が多いと感じるため、自分たちで地域づくりをするという機運が醸成されるとよいと考える。

⇒議員 本市も10年程前に地域協議会のような組織づくりを考えたが、本市は自治会を中心として地域社会づくりを行っている。この市民協働は、専門性のあるボランティアとしての意味合いが強く、地域でのつながりが希薄化する中、そのつながりを強化すべく、市が試行錯誤しながら作りあげていこうとしているものである。

⇒議員 地域協議会の考え方も理解するが、本市の方向性としては市民協働の中でそれを目指していこうとしている。

○全国ファミリー音楽コンクールは、予算額1300万円に対し来場者数が1400人であるが、四日市JAZZフェスティバルは、予算額547万円に対し来場者数が2万3000人である。費用対効果を考えると、全国ファミリー音楽コンクールの予算を削減することも考えられるのではないか。

○事業を反対するものではないが、全国ファミリー音楽コンクールの予算の使い方を考えるべきではないのか。特に司会者や賞金に多額の予算を投じているのではないか。

○多額の予算が必要であるならば、入場料を有料化すればよいのではないか。

○市に対し、入場料についてのアンケートを取ってみてはどうかとの提案をしたが実施されていない。

⇒議員 全国ファミリー音楽コンクールは、市長が提案した地域活性化のための方策の一

つであり、議会でも賛否が拮抗したが、結果としては賛成が多数であった。なお、本事業については、毎年度、予算や決算審議にて検討を行っている。

⇒議員 全国ファミリー音楽コンクールの考え方は様々ではあるが、本市のよさが全国に宣伝されるよい機会になっているのではないか。それには予算も必要であると考え

る。

⇒議員 議会内でも異論や反論があった。司会者への報酬についても、市場相場の考え方もあるが、指摘のとおり四日市 JAZZ フェスティバルとの比較という考え方もできる。8月議会の決算審議にて議論したい。

⇒議員 入場料を無料とし、多数の来場者を目的とする考え方と、有料化し、価値あるものを鑑賞してもらおうという受益者負担の考え方がある。市長は、全国に本事業を発信するため、当面は無料として多数の方に来場してもらいたいという考えであり理解もできる。まずは多数の来場者が必要であると考え、軌道に乗れば受益者負担という考え方も可能であり、いただいた意見は課題として行政とともに考えていきたい。

○坂部が丘の市営住宅の入居者の多くが高齢者であり、法津上、入居条件に収入の上限が規定されているため、若い世代の入居が難しい。東芝四日市工場から近いこの地域の市営住宅に若い世代に入居してもらおうべく、入居者の収入の上限の緩和を市に要望したが、法律の規定であるため難しいとの回答であった。市営住宅の収入の上限を緩和し、若い世代が短期間でもよいので入居し、近隣に家を建てるという循環になれば、この地域の活性化が図られると考える。

○自治会役員が高齢化し、大変な負荷がかかっており自治会の解散も考えるが、解散した際の地域への負担を考え、続けているのが現状である。市にも打開策を求めているが、議会ではどのように考えているのか。

○3年程前、災害対策として、坂部が丘の市営住宅の屋根の工事を行い、瓦の材質が変わったが、断熱材が入っておらず、夏は室内温度が46度まで上昇し、死者も出ており深刻な状況であるが、このような話は聞いているか。

○市営住宅に重度の障害者の方が入居されるが、民生委員が毎日朝と夜の様子を見に行っている。このような方が入居されることについて、自治会内でも議論がなされているが、どのように考えているのか。

⇒議員 以前、県営住宅に入居しており、収入の上限について県に意見を伝えたことがある。県営住宅も市営住宅と同様、法律上の規定であることから難しいとの回答であり、市営住宅の収入の上限についてはよく存じ上げている。

⇒議員 熱中症で死者が出ており、周囲の方が見回りをしていただいているという件も伺っている。所管の委員会へ意見を申し伝える。

⇒議員 所管の委員会へ意見を申し伝える。

○坂部が丘の市営住宅は昭和40年代に建設され、建物が古く、若い世代が入居しない。建て替えると家賃は上がるかもしれないが、入居期限を設ければよいのではないか。期限はあるが、四日市ではよい市営住宅が提供され、家を建てる資金を蓄えやすいとの声が上がっており、若い人たちの集まる住みよいまちを目指してほしい。

⇒議員 市営住宅は建設後、50年程度経過すると建て替えられる場合が多いと思われる。坂部が丘の場合は、入居者で意思統一して、建て替えの要望を上げること検討いただいているかどうか。いただいた意見は、所管の委員会へ申し伝える。

⇒議員 他の自治体にて、民間企業と連携して、市営住宅のリノベーションに取り組んでおり、若い世代が入居して効果をあげているという事例を聞いている。また、入居期限の設定という点についてもよい視点だと考えるので、所管の委員会へ申し伝える。

○市内の市営住宅の中では、大瀬古が一番人気があると聞く。建て替える予算がないのであれば、大瀬古のように土地を半分売却して予算を確保すればよいのではないか。

⇒議員 予算だけでなく、耐用年限を経過していないと建て替えられない。要望が強ければ実現可能性は高いとは思うが、所管の委員会へ意見を申し伝える。

○9月11日に市民総ぐるみ総合防災訓練が開催されるが、「市民総ぐるみ」とはどのような意味としてとらえればよいのか。健康な人だけ参加するのか。歩けない方や目の不自由な方など、障害を持った方の対応を考えるのも訓練ではないのか。

⇒議員 総ぐるみとは、危機管理室や消防本部のみではなく、市全体として総合的に防災訓練を実施するものである。

⇒議員 所管委員会に意見を申し伝えるとともに、今後、ご意見を参考にして、総ぐるみ

の防災訓練になるよう努めていきたい。